

Dell APEX Subscriptions を インフラ調達に採用し 初期投資の大幅削減に成功

Dell Data Protection Portfolio で
全社統合バックアップシステムを早期刷新
システムの安定性と運用効率化を向上



ビジネス課題

ネットワークシステムでは、社内の重要業務システム／データを全社統合バックアップシステムでバックアップしています。しかし、旧環境では操作不便やトラブル頻発による負のスパイラルに陥り、その対応や運用管理に大きな負荷が掛かっていました。そこで同社では、こうした問題を解消すべく、全社統合バックアップシステムの全面刷新に着手しました。

導入効果

-  全社統合バックアップシステムの安定性・信頼性を大幅に向上させることに成功
-  日次の定常運用作業時間を約1/2に、月次の非定常運用作業時間を約1/6に削減
-  圧縮・重複排除機能の活用により、データ容量を実データの約1/31に削減
-  インフラ調達に伴う初期コストを事前一括購入方式の約1/3に削減

旧環境で課題となっていた非効率な操作性やトラブル頻発状況を解消することに成功。障害対応などに時間を取られなくなったことで、日次の定常運用作業時間を従来の約1/2に、月次の非定常運用作業時間を従来の約1/6に削減できました。また、インフラ調達に伴う初期コストについても、事前一括購入方式と比較して約1/3に抑えることができました。

ソリューション

- [Dell APEX Subscriptions](#)
- [Dell PowerProtect Data Domain](#)
- [Dell PowerProtect Data Manager](#)
- [Dell RecoverPoint for Virtual Machines](#)

全社統合バックアップシステムを PowerProtect Data Domain と PowerProtect Data Manager で刷新すると共に、RecoverPoint for Virtual Machines による遠隔レプリケーション環境も構築。また、インフラ製品の調達手法に Dell APEX Subscriptions を採用することで、従来の事前一括購入方式からサービス利用型へのシフトを図りました。



「**インフラ調達では予算確保がしばしば問題になりますが、今回は『Dell APEX Subscriptions』の採用により、スモールスタートで課題解決に取り組みました。今後も新たな選択肢として積極的に活用していきたいと思います。**

ネットワークシステムズ株式会社
管理本部 DX 推進部 部長
川端 伸幸 氏

自社実践に基づく経験・ノウハウを活かし顧客企業に最適なソリューションを提供

「人とネットワークの持つ可能性を解き放ち、伝統と革新で豊かな未来を創る」を企業パーパスとして掲げるネットワークシステムズ。同社は日本におけるネットワークインテグレータのパイオニアとして、先進的なネットワークソリューションを提供し続けてきた。さらに現在では、ワークスタイル変革やクラウド利活用、セキュリティなど、幅広い領域にわたるソリューションを提供。顧客企業の成長を力強く後押ししている。

中でも注目されるのが、顧客企業に提供する製品やソリューションを自社でも積極的に導入している点だ。ネットワークシステムズ DX 推進部部長 川端 伸幸氏は、その狙いを「様々な製品／ソリューションを自ら活用することで、その特長や効果的な利用法などを深く理解することができます。こうして得られた経験・ノウハウは、お客様へ提案を行う上で貴重な財産となります」と語る。

たとえばその一例が、社内向けに提供している業務環境だ。川端氏は「基本的に当社では、リモートワーク／ハイブリッドワークを主体としています。そこで、自宅や外出先など、どのような場所からでもセキュアかつ快適に

働ける環境を構築。実際に当部門は東京の拠点に所属していますが、東北や関西の拠点で働いているメンバーもいます」と続ける。こうした仕組みを実現する上では、IT 以外の面にも目配りが必要だ。会社の人事制度が柔軟な働き方を前提としたものでなければ、リモートワークの導入もままならないからである。そこで同部門では、社内の関連部門と連携して制度／ルール等の整備にも貢献。このような経験があるからこそ、「絵にかいた餅」ではないソリューションが提供できるのだ。

全社統合バックアップシステムの環境改善を目指し

Dell PowerProtect Data Domain を導入

もっとも、その会社においても、社内システムの運用を続けていく中では、様々な困難に直面するケースもあった。特に直近の課題となっていたのが、全社統合バックアップシステムの環境改善だ。ネットワークシステムズ DX 推進部 第 5 チーム マネージャー 喜田 篤史氏は「本バックアップシステムは、全社仮想化基盤上で稼働する大量の仮想サーバー群、SAP システム、DB システムなどのバックアップを一手に引き受けています。しかし、旧環境ではそもそも定常運用が煩雑化していた上に、トラブルも頻発していました」と明かす。

たとえば、一見問題なくバックアップできているように見えても、後で確認してみるとエラーが発生しており、肝心のバックアップデータが破損しているケースもあった。ネットワークシステムズ DX 推進部 第 5 チーム エキスパート 渡邊 満氏は「当然こうした問題を放置するわけにはいきませんので、我々としてもすぐ調査に取り掛かります。しかし、調査に必要なログ収集などの作業自体が非常に面倒な上に、ベンダーからもなかなか回答が返ってこない、解決には追加の投資を求められるなど、真の原因が掴めないまま、なんとか運用を回している状況でした」と説明する。

同社では、ベンダーの勧めに応じて追加投資を行ったりもしたが、一向に問題が解決する気配は見えない。しかも採用製品はソフトウェアのライフサイクルが短く設定されていたため、トラブルが解消できないままバージョンアップを強いられることもあった。社内の重要なシステム／データを確実に保全するためには、このような状況を一刻も早く変えていく必要がある。そこで、同社では、全社統合バックアップシステムの抜本的な刷新着手を決断。ここで選ばれたのが、デル・テクノロジーズの圧縮・重複排除バックアップアプライアンス「Dell PowerProtect Data Domain」(以下、Data Domain)、並びにサーバーやストレージなどの IT リソースをサービス利用型で導入できるプログラム「Dell APEX Subscriptions」(以下、Dell APEX)であった。

高い信頼性・安定性を活かし旧環境での負のスパイラルを解消

今回の製品選定に際し、同社では複数のストレージ製品を候補に挙げて比較・検討を行った。その上で Data Domain を選んだ理由を、喜田氏は「当社では以前 Data Domain を利用していたことがあり、



日次の定常運用作業時間を約1/2に、
月次の非定常運用作業時間を約1/6に削減

その信頼性や安定性は高く評価していました。特に、高効率な圧縮・重複排除機能を有しており、リソースを有効に活用できる点もポイントとなりました」と語る。また、渡邊氏は「ソフトウェア/ハードウェアを別々のベンダーにしてしまうと、障害時の原因切り分け等で悩まされることになります。その点、デル・テクノロジーには Data Domain 専用に設計されたバックアップソフトである『Dell PowerProtect Data Manager』（以下、Data Manager）が用意されていますので、環境全体をデル・テクノロジー製品で統一できます」と続ける。

実際の導入作業には2024年2月より着手。順次旧環境からの移行を行い、同年7月より無事本番稼働を開始している。これにより、同社のバックアップ業務にも大きなメリットがもたらされることになった。



『Dell PowerProtect Data Domain』を導入したことで、高い信頼性と安定性を備えたバックアップ環境が実現できました。
おかげで現在では、
旧環境時代のように頻発する
トラブルに悩まされることもなくなっています。

ネットワークシステムズ株式会社
管理本部 DX 推進部 第5チーム マネージャー
喜田 篤史 氏

喜田氏は「最大の成果は、なんといってもバックアップにまつわるトラブルが解消できたことです。以前は部署内の問題報告でもバックアップという言葉が聞かない日がなかったのですが、現在ではほとんどそうした声を聞きません。おかげで、不安なく業務に取り組めるようになりました」とこやかに語る。

シンプルで優れた操作性が 運用管理の効率化に貢献

また、運用管理の効率化も図れたとのこと。渡邊氏は「以前のバックアップソフトウェアはユーザーインターフェースが複数用意されており、使用する機能や操作に応じて使い分けなくてはなりません。ログ収集作業も非常に面倒で、相当な手間と時間が掛かっていました。その点、Data Manager は操作性に優れており、ストレージに精通したメンバーでなくとも容易に作業が行えます。運用管理の属人化を避ける上でも、こうした環境が整っていることは非常に重要です」と語る。

これらの効果は、定量的な数値としても明確に現れている。たとえば運用管理については、日常的に実施する定常運用作業時間を従来の約1/2に削減。トラブルが激減したことから、イレギュラー対応も含めた月次の非定常運用作業時間も従来の約1/6に減っている。圧縮・重複排除機能の効果も大きく、実容量の約1/3しかリソースを消費していないとのことだ。

ちなみに、同社では遠隔地の拠点に2台のData Domainを設置しつつ、「Dell RecoverPoint for Virtual Machines（以降、RecoverPoint for VMs）」も活用し、DR対策の多層化を行っている。これにより、万一大規模自然災害等が発生した場合にも、重要なシステム/データを保護し、迅速な復旧を実現することが可能だ。さらにData Domainには、エンタープライズアプリケーションとの連携に対応した「アプリケーションダイレクト」機能が用意されているため、今後は同機能を活用したSAPシステムのバックアップ効率化も検討している。

サービス利用型へのシフトで 初期コストを約1/3に削減 インフラ調達の新たな選択肢に

加えて、もう一つ見逃せないのが、今回ネットワークシステムズとして初採用となったDell APEXの効果である。川端氏は「Dell APEXについては、以前から紹介を受けていたのですが、最初はそういうメニューもあるのだから印象でした。しかし、今回の事態に直面し、改めてその価値を色々と再認識しました。たとえば、いくらバックアップシステムの改善が急務とはいえ、いきなり多額の予算を確保するのは大変です。その点、Dell APEXであれば、スモールスタートですぐに課題解決に着手できます。またバックアップに限らず、今回の事態のような急遽の入れ替えに迫られた時、サービス利用型であれば、ユーザー視点だと切り替えリスクの低減にもなります。その結果、よりよいもの、新しいものにチャレンジしやすくなるなども感じました」と語る。



『Dell PowerProtect Data Manager』は
大変操作性が優れており、
ストレージに精通したメンバーでなくとも
容易に作業が行えます。
運用管理の標準化や効率化を図っていく上でも、
大きく貢献してくれています。

ネットワークシステムズ株式会社
管理本部 DX 推進部 第5チーム エキスパート
渡邊 満 氏



実際に今回の取り組みでも、同じ環境を事前一括購入方式で調達する場合と比較して、約 1/3 程度に初期コストを抑えられたとのこと。喜田氏も「その他にも、事前一括購入方式だと、容量が少し足りないだけに丸ごとハードウェアを買わざるを得ない、後々使わなくなったとしても簡単に廃棄できないといった問題があります。これもサービス利用型の Dell APEX であれば、その時必要なリソースを柔軟に調達できます。また、固定資産管理などの作業が不要になる点も大きなメリットですね」と続ける。今回の導入成果を高く評価した同社では、今後のインフラ調達に

おいても、Dell APEX を新たな選択肢として積極的に検討していく考えだ。

こうして全社統合バックアップシステムの改善に成功した同社だが、最適なインフラ環境を目指す取り組みはまだまだ続いていく。川端氏は今後の展望を「生産性の高い業務環境を社内に提供すると同時に、お客様への価値提供を後押ししていくことが我々のミッション。データ保護についてもさらなる強化を図り、より高いレジリエンスを備えた環境を実現していきたい」と述べた。

